

頭痛、筋力低下、脳梗塞様の経歴がある58歳女性

### 【Problem List】

#### **#1 進行性の失見当識、不注意、認知障害**

入院2年前から、寛解、再発を繰り返す認知性の神経症状を呈している。入院時は自分の名前住所は言えるが、逆さ読みは不可能。失認、失語なし。触覚は両側性に障害され、ひざより下で温痛覚が障害されている。右上肢指鼻試験にて測定障害を認める。

初回は Warfarin、Aspirin が処方されて症状は消失しているが、これが奏功したのかは不明。凝固能、髄液検査正常に異常は認められない。抗核抗体、抗 Lyme 抗体、Vit. B12 値もすべて正常範囲。

#### **#2 進行性の運動機能障害**

右側優位の眼瞼下垂、筋力低下がみられる。再発ごとに右半身の筋力低下が増悪。入院時は、びまん性に全身の筋力低下が著しかった。入院時は易疲労感のため立ち上がることが出来なかった。

MRI にて、左放線冠、脳梁にて T2high の所見を認めた。再発時、T2high の領域が拡大しており、左放線冠後部にも新規に T2high の領域が認められる。

#### **#3 心不全症状**

入院時、左胸骨上縁に 2/6 度の systolic murmur を認めた。bruit は認めなかった。記載にはないが、各種抗不整脈薬、digoxin を処方されていることから、患者は不整脈、心不全を持っていると考えられる。また、高血圧があり各種降圧薬を処方されている。

#### **#4 DM の既往**

30年前に診断されている I 型糖尿病。Insulin にてコントロールされている。

#### **#5 甲状腺機能低下**

35年前、甲状腺機能低下の診断を受けている。levothyroxine の処方を受けている。

### 【入院後経過】

入院 14 日目に脳組織生検が行われた。入院 16 日目に患者はリハビリ施設から出て、退院した。その一週間後、胸部不快感、腹痛、持続する嘔気、嘔吐が出現し、再入院。この際、再び脳組織生検が行われた（結果は C プリント Fig.2 参照）。また、疼痛に対して morphine、便秘に対して laxative、鬱症状に対して escitalopram、methylphenidate を処方。持続する嘔気、嘔吐に対して胃瘻、十二指腸瘻の造設が行われた。これらの処置の後、患者はインシュリン治療を含む全ての生命維持のための処置を停止することを希望し、家族も同意。これにより、最後の入院から 3 週間後に palliative care unit にて患者は死亡した。その後、生検が行われた。